Torako Yui

由井寅子 Interview

取材・文○杉野升美
Interview & Text by Masumi Sugino

『症状はありがたい』
由井寅子講演DVD
とらこ先生が
本気でつたえる
ホメオパシー入門講演の
決定版
ホメオパシー出版
1,365円(税込)

あなたが魂の宿題をするために 私はあなたを健康にしたい

ドイツの医師サミュエル・ハーネマンが確立した、約200年の歴史を持つホメオパシー。
海外では統合医療や補完・代替医療、また健康法として広く取り組まれている自然療法である。
日本においてもその認知度が高まる中、日本のホメオパシーの第一人者である由井寅子氏にお話を伺った。

由井寅子
Torako Yui

ホメオパシー統合医療専門校カレッジ・オブ・ホリスティック・ホメオパシー（CHHom）学長。湘南性大腸炎を患い、ホメオパシーで完治したのをきっかけにホメオパシーを学び、日本人で初めて英国ホメオパシー医学協会認定試験に合格。日本のホメオパシー教育の礎を築く。医療例など難治の症例を多数ホメオパシーで治癒に導き、世界からも注目を浴びている。

日本の伝統療法に通じる現代人が求めた自然療法

——ホメオパシーについて、概要を教えていただけますか。

由井　ホメオパシーは身体に優しく安全で、常習性をもたない自然療法です。「同種療法」と呼ばれていて、「症状を引き起こすものが、その症状を取り去るものになる」という根本原則になっていて、悲しみには悲しみのより増加させるレメディー（砂糖玉）を与え、自己治癒力が自分をふるいたたせ、悲しみを乗り越えるものです。

実は、「症状はありがたい」と思うのです。なぜなら、症状が表れるというのは自己治癒力が働いているという証拠だからです。ホメオパシーは、その症状を出し切れるように後押しし、最終的に病気の根本原因をなくすという考え方をしています。

——ホメオパシーが日本に広まった経緯を教えてください。

由井　江戸時代に入ってきましたが、日本には似たような療法が伝統的な民間療法として使われていましたので、当時は普及しませんでした。たとえば、ノドがヒリヒリしたらピリッと辛味のある生姜湯を飲んだり、熱が上がったら布団を掛けて温かくしたりしますね。「ヒリヒリにはヒリヒリを」「熱には熱を」——というように、ホメオパシーの同種の考え方自体は、5000～6000年前から使われているものです。

明治以降は蘭学、ドイツ医学、西洋医学が導入されたため、ほとんどの人がホメオパシーを知りませんでした。

17年前、私はこれを日本に広めるために英国から帰国し、小さな公民館で講演会を行うことから始めましたが、最初の10年程はかなりの軋轢があり、病気に対する恐怖の刷り込みや症状は悪いんだというプロパガンダ、このような人々の信念の壁を打ち破るのにそれは苦労しました。

現代の西洋医学の多くは、症状を抑えるために抗生物質やステロイド剤を処方しますが、それを使っても治らないという事実を突きつけられた患者さんたちが、別の治療法を求めていたのです。

私の講演を聴いて、実際に使った人がその効果を見てリピーターになり、次第に口コミで広がっていきました。

現在「ホメオパシーとらのこ会」には約5万人に及ぶ会員がいます。実際に使った国民がホメオパシーは安全で素晴らしいと言ってくれたので、その署名を持って厚生労働省に行ったところ、国はもう動かざるを得なくなりました。つまりこの療法を国民が自ら求めたのです。

この春、ホメオパシーは鍼灸とともに政府の統合医療プロジェクトの候補16療法に入りました。ようやく日本でも政府レベルの検討段階に入り、ホメオパシー療法専門家（ホメオパス）に対しても資格制度化が検討されます。このことは新たな第一歩が始まったことを意味しています。

——今後の抱負をお聞かせください。

由井　現在、ホメオパシー療法は世界中に広がっていて、ヨーロッパでは「代替医療の花形」と言われています。インドでは第一医学（アーユルヴェーダ、ホメオパシー、現代医学）のひとつになっていて、ガンになってもこの3つのうちどれかの療法を受けることができます。私も日本がインドのような社会になることを望んで、日々邁進しているところです。

本来の自分を生きて、生命の源に尊敬と感謝を

——2012年のアセンションには、どのような思いを抱いていますか。

由井　アセンションはすでに始まっていて、長期にわたると私は考えています。ですから、体力がないとこれを乗り越えていけません。私たちは霊的に上がらなければならないので、早く進化する必要があります。そのためには魂の宿題をしなくてはいけないのですが、それ以前に身体が壊れていたらできませんね。病気で痛みがひどい人に、「何のために生まれてきたか」なんて言うわけにはいかない訳です。だから「このホメオパシーで少しでも楽になったら、自分を見つめる作業をしてください」と導くのが私たちホメオパスの役割です。

これからは自分が自分を治す時代です。人は、誰かが代わりに健康になることはできません。自己治癒力こそが自分を癒します。それを働かせるためには、徹底的にインナーチャイルドを癒すことが重要です。1日15分でいいので、自分の幼い頃に呼ばれた名前で自分に語りかけてやってください。これは瞑想よりもずっと大事だと思います。「汝自身を知れ」ですね。

そして親や社会、道徳の刷り込みなど多くの抑圧から自由になり、自分らしく生きていただきたいと思います。男だって泣きたいときには泣けばいい。思考で感情を抑圧すると、行き場のない悲しみの感情が潜在意識に入り、悲しみの涙は最終的に体液に戻っていきます。こうした感情が落とし込まれた体液のままでいると、いろいろな病気の症状が出てきてしまいます。だから自分に対して優しく正直に生きて、もっと自分の魂を喜ばせてやって欲しいと思います。

また、他人との違いを受け入れることも大切です。自分と違う考え方を否定するのは簡単ですが、その人が言いたいことを聞こうとするところに、愛があるのではないかと思います。

さらに、霊的な進化に対して積極的なのはいいのですが、精神世界ばかりでなく、地に足をつけて、生きるための糧（収入）を得てしっかりとした基礎固めをすることも大切だと思います。バランス感覚は重要です。

最後に、どんなに絶望的な状況でも希望を忘れないこと。ホメオパシーの観点から言えば、どん底まで行くとそこから生きる力が湧いてきます。自分の力で希望を見出すのです。その力は大いなる源、生命の源から来ていて、誰もがもっています。それを神や創造主、宇宙の力など何と呼んでも構いませんが、それは何があっても、あなたを悪いようにはしないはずです。

Information

●第11回 JPHMAコングレス in つくば
ステップ2010　ホメオパシー統合医療の時代へ

「人はなぜ病気になるのか？　ーその原因とー
人はなぜ治るのか！　ーホメオパシーでの治癒例ー
答えは、コングレスの中にあります」
全国のホメオパスによる様々な治癒症例の発表や、国内外の著名なゲストを迎えたスピーチなど、ホメオパシー統合医療の最先端の情報が集合する学術大会。来年は、28カ国が参加する第1回のホメオパシー世界大会が開催される。

［日程］2010年9月25日(土) 10:00～19:00
9月26日(日) 9:00～17:00
［会場］つくば国際会議場
［参加費］一般　18,000円（1日参加10,000円）
［詳細・お問い合わせ］日本ホメオパシー医学協会(JPHMA)
TEL:03-5779-7411　FAX:03-5779-7412　http://jphma.org/